



十和田市立中央病院

病院ニュース さわらび

平成 28 年 3 月 15 日号



地域包括ケア病棟開設と地域医療構想



平成26年度から地域医療構想を踏まえてそれぞれの病院がどのような機能を持っているのかを、自主的に国に報告する病床機能報告制度が開始されました。具体的には、高度急性期（ICU等を想定）急性期、回復期、慢性期の定性的とも言える4つのカテゴリーから選択するという内容でした。当院は二次医療圏である上十三地域の中核病院であることや、DPC対象病院であり高度な医療機能を有するとみなされる機能評価係数が高いこと等を参考にして、当初はすべての一般病床（325床）を急性期として届け出ました。

平成27年度になり、国から地域医療構想策定ガイドラインが示され、病床機能の定量的な境界点が明らかとなりました。この基準を用いて大まかに当院の入院患者を機能別に分けてみると、高度急性期30%、急性期40%、回復期・慢性期30%との結果でした。当院の役割としては急性期病床を中心に据えるのは当然ですが、機能分化の観点からは、3割を占める回復期・慢性期の患者の受け皿となる病棟が当院にも必要である、と再考するきっかけになったデータでした。また、先日県が策定した上十三医療圏の地域医療構想でも示されているように、当院はこの地域の中核病院として急性期医療を担うとともに在宅医療への関わりも期待されています。これらを考え合わせると急性期医療と在宅医療をつなぐ機能を有する病棟が地域住民のために必要であり、地域包括ケア病棟の開設はその条件を満たし得るという結論に達しました。

その根拠ですが、過去15ヵ月分の当院入院患者のDPCデータを分析し、地域包括ケア病棟の対象患者についてさらに詳細なシミュレーションを行ってみたところ、以下のような結果を得ることができました。

1. **メンタルヘルス科、小児科および眼科を除く全ての診療科に地域包括ケア病棟の対象患者（想定では30人前後）が存在する。**
2. **地域包括ケア病棟の導入が患者・家族のためになり、地域完結型医療に貢献できる。（上十三地域には回復期病床が少ないため、八戸医療圏へ流出している現状がある。）**
3. **患者の高齢化に伴い、今後更に地域包括ケア病棟の需要増加が見込まれる。**

以上のような解析結果を考慮し、かつ国や県が示す方向性への対応、そして当院の将来的な展望も踏まえて、地域包括ケア病棟の導入を決定した次第です。この度3ヵ月の試行期間を経て、2016年2月1日から正式にこの病棟の運用を開始しております。具体的な機能としては、主に手術等の急性期医療を終えられ、ご自宅等へ退院なされる前の準備期間をサポートする病棟と位置付けております。当院の病床機能は、現時点では高度急性期91床、急性期188床、回復期（地域包括ケア病棟）46床と報告しており、今後もより柔軟で地域完結型医療に資する運用を展開して行くつもりですので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

2016年3月7日
院長 丹野 弘晃

「市民健やかゼミナール（すこゼミ）」開催！

業務課 横岡 聖一

去る2月23日（火）に、院内において「市民健やかゼミナール」が開催されました。

この催しは、市民の皆様健康について気軽に学んでいただく場を提供することを目的として初めて企画したものです。



今回はトップバッターとして当院の丹野院長に「健診のすすめ～がんの早期発見のために～」と題し、がん健診の受診率や推奨度など具体的な数値を示しながら、わかりやすく解説していただきました。平日ということもあり20人程度の参加でしたが、質問やご意見が次々に寄せられ、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく学ぶことができ、皆さん大変満足した様子でした。今後も定期的開催し、中央病院からの情報発信を積極的に行っていきたいと考えています。『バラゼミ』ならぬ『すこゼミ』にぜひご参加ください！



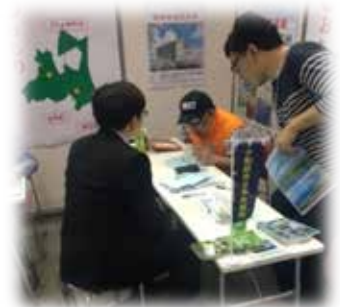
「レジナビフェア2016福岡」出展レポート！

業務課 吉田 武範

3月6日（日）に、福岡市のマリンメッセ福岡において「民間医局レジナビフェア2016福岡（臨床研修プログラム）」に出展しました。

この催しは、医師国家試験を合格した者に義務付けられる2年以上の臨床研修を受ける病院を選定するにあたり、主に医学生向けの合同説明会の場として、福岡のほか東京・大阪・金沢で毎年開催されています。

今回出展した福岡会場では全284施設が参加しており、当院はつがる総合病院と八戸市民病院と共に青森県医師臨床研修対策協議会として出展しました。当院からは、事務局のほか善積医局長、中野医員、菅原研



設営したブースの様子



学生に説明をする、善積医局長（右端）と中野医員（左端）

修医が参加し、訪れた学生に対して当院の特色、勤務実態や給料等の状況、さらには十和田市での実生活体験や青森県の観光情報に至るなど、細部に渡り研修医の獲得のための熱心な説明に努めました。

地元の九州出身の医学生が多い中、当日は計21名の医学生に当院の説明をすることが出来、中には見学にかなり前向きな学生も数名いるなど手ごたえを感じる事が出来る催しとなりました。

